

(イ) 学会

(A) 本学開催誘致の場合（生産管理学会全国大会実行委員、電気学会全国大会実行委員等）

- ・ 全国大会 4件
- ・ 支部大会 2件

(B) 委員会本学開催誘致の場合

- ・ 国際会議 1件
- ・ 全国大会 1件
- ・ 支部大会 1件

(C) 学会役職（日本生産管理学会副会長、九州支部長、理事、日本経営工学会九州支部長、理事、幹事）

- ・ 役員 6名
- ・ 委員会委員長 1名
- ・ 委員会委員 3名

(ロ) 学外活動（日本経営工学会論文誌、Math. Journal of Okayama Univ.のレフェリー等、学外博士論文副査）

- ・ 専門分野に関わる講演 3件
- ・ 専門分野に関わるボランティア 3件

(ハ) 各省庁等

- ・ 委員長 1名
- ・ 委員 1名

(ニ) 自治体（北九州戸畑区のセミナー講師、公開講座講師等）

- ・ 委員会委員長 1名
- ・ 委員会委員 2名

(四) 社会環境学部

(イ) 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

公開講座は開設していない。公開講座ではないが、ビオトープ活動については、平成18年3月のビオトープ造成以来、市民参加による「福岡工業大学ビオトープ・里山自然観察会」を、これまで12回開催している。平成20年度は、4、6、10、11月の4回開催したが、参加人数は毎回約20～30人である。市民への呼びかけは、「NPO法人大学・地域交流まちづくり実行委員会」を通して行っている。さらに、東区の「コミュニティユース事業」に選定され、東区の支援を受けると共に、公民館や地域団体のサポートも頂いている。内容は、四季折々の自然観察を主としているが、自然の恵みを頂く活動（春はよもぎを入れたホットケーキを試食、秋は植物のつるを用いたかごづくり、など）も人気である。プログラム作成は学生が中心となって行っており、自然観察の手法としてビンゴゲームなどを取り入れるなど工夫している。その支援は、日本野鳥の会などの専門家の方にして頂いている。

(ロ) 教育研究の成果の社会への還元状況

本学部教員のこの面における社会貢献について、実績は以下のようなものである。

学会における役員担当は延べ人数約100人、学会委員会委員長は延べ人数約15人、専門

分野に関わる講演は延べ人数約 60 人、専門分野に関わるボランティア活動は延べ人数約 24 人、各省庁等関係委員会及び評価機関等における活動は延べ人数約 30 人、自治体委員会委員長、委員は延べ人数約 5 人である。

そのほかに、社会環境学部の教育の大きな特色は「環境教育」にある。平成 15 年 12 月に国際的な環境マネジメントシステムである ISO14001 の認証の取得を果たした。教育現場の ISO14001 の認証取得としては、福岡県で初の取得であり、環境問題を学ぶ学生にとっては、大きな効果をあたえた。ISO14001 については、認証前、認証後にかかわらず外部専門家による ISO14001 に関する特別講演会を開催し、教員、学生ともに理解を深めるとともに、各ゼミにおいても理解を徹底した。同時に、これをきっかけとして、学生が自発的に学生メンバー会を立ち上げ、積極的に ISO14001 の活動を行い、学生によるパンフレットの作成、新入生に対する説明会などを行った。加えて、外部への環境関連施設への見学や、地域の里山の整備などにも参加するなど、自発性の発揮がさらに積極的になりつつある。

(点検・評価)

社会環境学部の 30 名の教員はほとんど社会科学系の専門分野に所属している。また、社会科学の幅広いそれぞれの専門学会に所属し、複数の教員が同じ学会に所属するケースはごく少ない。したがって現状では、学会年次大会などを誘致するのがほぼ不可能である。また、その他の社会貢献については、必ずしも十分ではないが、個々の教員が最大の努力をする必要はある。

(改善方策)

学科会議、学部教授会において、個々の教員が努力によって、社会貢献度をアップするように促して改善していきたい。

(五) 大学院工学研究科および社会環境学研究科

(1) 社会への貢献

(イ) 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

工学研究科が主催する公開講座は、現在までのところ開かれていない。

社会環境学研究科は、市民にも開かれた公開型シンポジウムを 2007 年度に初夏と秋に以下の企画で 2 回開催した。社会に開かれたシンポジウムとしては成果が得られ、本研究科の認識が大きく得られたものとする。

- (A) 福岡工大社会環境学研究科設置記念シンポジウム「福岡工大大学院社会環境学研究科に期待するもの」を設置間もない 7 月上旬に開催した。これは、本研究科設置の趣旨を広く社会に広報して、双方向的に経済、地域、人間・生命との関連で多角的に環境問題を考えるという社会環境学の認知度と理解を深めるために開かれたもので、来賓には中国駐福岡総領事館総領事代理の領事を迎え、パネラーには、企業関係者・行政（福岡市）・民間学会・環境省地方事務局・環境技術研究者・地元 NGO からなるパネルディスカッションで相互理解と意見交換を行った。参加者は、社会人 25 名、行政関係 7 名、学識・大学研究者（学内含む）17 名、学生 10 数名を得ている。
- (B) 福岡工業大学・社会環境学会準備共催講演会&シンポジウム「森から考える社会のサステナビリティ」は 10 月 11 日に、森を 100 年保全しながら木工・木造家屋のものづくりを実践している飛騨高山からオークビレッジ代表の稲本正氏を招聘して経済、地域、人間・生命との関連で多角的に環境問題を考え、広く社会環境学の認知度と理解を深める趣旨で開催された。パネリストには本学部森林保全学、環境政策学のスタッフに加えて、大分県日田市林業経営者及び森林保全にかかわりの深い企業人が参加し